

京都府地球温暖化防止活動推進センター通信

STOP! GLOBAL WARMING

うおーみんぐ

LET'S WARM UP OUR ACTION

平成 19 年
春号
～第 12 号～

地球温暖化問題に取り組む人のための通信です。
実践活動への意欲を、アイデアを、仲間同士の関係を、ホットに温めます！



府内各地で京都府産木材の家が建設されています（関連記事 P.6）
（写真：京都・森と住まい 100 年の会主催の見学会の様子）

CONTENTS

- 巻頭特集
「環境に優しい行動」をするなら、
「かしこくクルマを使うこと」が
一番ですP.2～4
- 緑のカーテンシンポジウムを開催
しましたP.5
- 活動レポートP.6～7
- HOT TOPICS.....P.6
- 事務局からのお知らせP.8



京都府地球温暖化防止活動推進センター

Kyoto Center for Climate Actions

京都府地球温暖化防止活動推進センターは、府内の温暖化防止活動を様々な面からサポートし、一層活性化させることを目的に活動するセンターです。平成 15 年 10 月 10 日、府内の多様な団体が連携し新たに立ち上げた NPO 法人 京都地球温暖化防止府民会議が京都府知事からセンターとしての指定を受け、その活動を開始しました。

京都府地球温暖化防止活動推進センターの活動は、国、京都府、府内の多様な団体、会員の皆様などのご支援によって支えられています。

「環境に優しい行動」をすれば、「かしくクルマを使うこと」が一番です。



京都府地球温暖化防止センターでは、京都府交通対策課や、市町村・団体・鉄道バス事業者などと連携して、通勤や買い物などに専ら自家用車を用いている方々に公共交通や自転車などの利用を促す「かしこい車の使い方を考えるプロジェクト」を行っています。このプロジェクトは、個人のモビリティ（移動）が、社会にも個人にも望ましい方向へ、自発的に変化することを目的とする「モビリティ・マネジメント」の手法を用いています。

今号では、「モビリティ・マネジメント」の日本での取組の第一人者であり、京都でのいくつかのプロジェクトにも関わっておられる、藤井先生に寄稿していただきました。



「クルマ」はとても便利な乗り物。いつでもどこへでも、自由に移動することができますし、天気が悪くても、暑くても寒くても、荷物が多くても小さい子供がいても、気にせず自由に移動することができます。まさに、文明の利器。クルマは人類が生み出した、私達の暮らしを最も大きく変えた発明品の一つ、といっても過言ではなさそうです。しかし、その「便利さと快適さ」のために、とても大きな「代償」を支払っているとしたら・・・。

ここでは、この事について少し、考えてみることにしましょう。

「燃やされるガソリンの量」を考える

クルマは、ガソリンを入れないと走りません。しかし、どれくらいのガソリンを使っているか、という「量」について、お考えになったことはあるでしょうか？

例えば、ガソリンタンクの大きさは、おおよそ40～50リットル。これを「直感的」に考えるために、例えば、冬の間、家庭でヒーター等のために使う「灯油」のための「18リットル容器」を思い



藤井聡先生
東京工業大学大学院
理工学研究科教授

出してみましょう。その容器で言うなら、ガソリン満タンは容器2、3個分。18リットル容器一つを運ぶだけでも結構骨が折れる作業であることは、皆さんも良くご存じのところだと思います。それが、2、3個分と言えば、結構な量だと言えるのではないのでしょうか。

さて、この満タンのガソリンですが、これもまた当たり前ですが、クルマを使えば燃やされて、その大半が気体（排気ガス）になって「大気中に放出」されてしまいます。つまり、あの重い18リットルの灯油の容器数個分のガソリンは、しばらく走っていると、全てきれいさっぱり、大気中に「ばらまかれて」しまうのです。

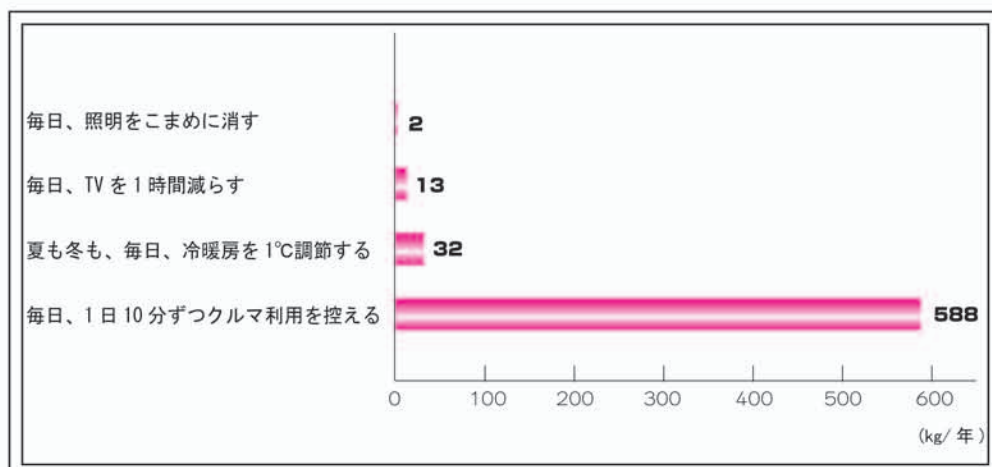


図1
いろいろな「環境に優しい行動」をとった場合に、一年間で削減できるCO₂排出量

10分走ると、CO₂が約1キログラム

では、具体的に、クルマを使うと、どれくらいの量の「地球温暖化ガス」、すなわち、CO₂が、大気中に放出されるのでしょうか。もちろんこれもまた、クルマの大きさや走り方によっていろいろですが、大雑把に言うと、クルマを10分使えば、「1～2キログラム」のCO₂が排出されている、という数字が知られています。

そう考えますと、例えば、クルマで片道30分の外出をすると、それだけで、往復で「約6～12キログラム程度のCO₂が排出されることとなります。

ちなみに、クルマの無い世帯で排出されるCO₂は平均で1日「約5キログラム」。普段わたしたちは家庭の中で、蛍光灯をつけたり、エアコンを付けたり、お風呂をわかしたり・・・、いろいろな事をしています。しかし、それらの活動から出るCO₂を全てたし合わせた量よりも、たかだか片道30分のクルマでの外出一回で排出されるCO₂の方が、ずっと多いのです。そう考えれば、家族の中にクルマで毎日使う人が何人かいる

だけで、その家庭は「環境に優しい家庭」ということになってしまいそうですね。

ここで図1をご覧ください。この図は、いくつかの「環境に優しい行動」を毎日続けた場合の、一年間のCO₂の排出削減量の合計を示しています。例えば、毎日こまめに照明を消すと、年間で2キログラム、毎日冷暖房を1度づつ調整すると年間で32キログラムのCO₂が、それぞれ減ることになります。しかし、それらよりも段違いに効率的なのが、「クルマ利用を控える」こと。例えば、毎日10分ずつクルマ利用を控えることは、冷暖房の調整や、照明やテレビをこまめに消して回るよりも、何十倍、あるいはそれ以上も、「環境に優しい行動」であることが、この図から分かります。

では、なぜ、クルマを使うと、こんなにたくさんのCO₂が出るのでしょうか？その答えは至って簡単。例えば、蛍光灯やエアコンの「大きさ」を考えてみてください。そして、クルマの大きさを考えて、それらを頭の中で比較してみてください。その差には、歴然としてい

ますよね。クルマは、何トンもある鉄の塊なのです。ですから、クルマで移動する、ということは、「何トンもある鉄の塊をあちこちに引きずり回している」ということなのです。言うまでもなく、それだけの重いモノを動かすには、かなりの「エネルギー」が必要で、それ故に、排出されるCO₂も格段に大きな量になってしまいます。

かしこい「クルマ」の使い方、に向けて

以上の話は要するに「環境に優しい行動をするなら、クルマを控えるのが一番！！」ということを意味しています。電気やテレビをこまめに消すより、クールビズでがんばるより、クルマを少しずつでも控えることが一番効果的なのです。

「京都」ではまさにこの点に着目し、様々な行政機関や組織が一緒になって、ひとり一人が、自分自身のクルマの使い方を見直してもらうためのプロジェクトを進めています。そのプロジェクト名は「かしこいクルマの使い方を考えるプロジェクト・京都」（図2参照）。このプロジェクトの一番肝

心な点は、クルマと「かしこく」付き合う方法をひとり一人が考えること。言うまでもなく、クルマはとても便利で快適、でもよくよく考えると、私達の暮らしの中にはクルマを使わなくてもいい場面が、たくさんあるはず。近くの買い物は徒歩や自転車で行けばクルマは要りませんし、遠くにクルマで買い物に行く代わりにクルマでなくても行ける近所の商店街で買い物を済ませることができるともいけません。通勤・通学も、健康のことも考えながら自転車で通うことだってできるかもしれませんし、休日にわざわざドライブをしなくても電車やバスでピクニック

に出かけたり、近所の公園でゆっくり過ごすこともできるかも知れません。そう考えれば、クルマ利用を減らすことは、決して難しいことでは無い、と言えるのではないのでしょうか。

是非、皆さんも一度、自分自身の、そして身の回りの方の「クルマの使い方」を見直してみてもどうでしょうか。

もちろん、「そんな取り組み、いくらやっても無駄じゃないか・・・」、と思う方もいらっしゃるかもしれませんが、でももし全員がそうやって「あきらめて」しまえば、地球環境問題が解消されることは絶対に無くなってしまいう



図2 「かしこいクルマの使い方を考えるプロジェクト・京都」のロゴマーク

しょう。だからこそ、ひとり一人が少しずつ環境に優しい行動を考えていくことでしか地球環境問題の解消は望めない、ということもまた事実なのではないのでしょうか。

関連情報

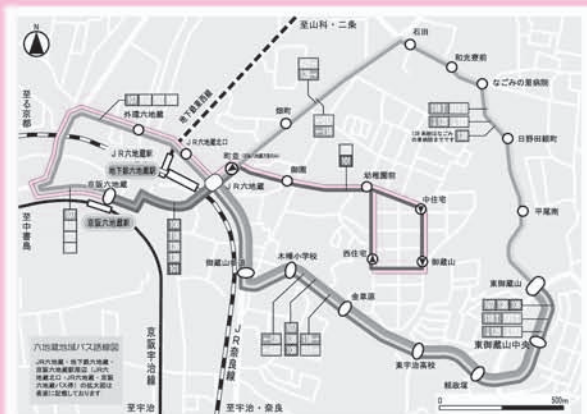
電車・バスマップで乗りやすい公共交通づくり
～センターも取り組んでいます～

センターでは、環境省 EST 普及啓発事業の一環として、

- ・京都府南部のすべてのバス路線の系統を網羅した「電車バスデータベースマップ」
- ・「データベースマップ」で作成した路線図をもとに、乗換え時刻表や 便利な切符の案内などを付加し、特定の地域の住民の方々に使ってもらうことを目的とした「電車バスブック」（2006年度は宇治市六地藏地域で試行版を作成）

の取り組みを行いました。

今後、地域の方々や鉄道・バス事業者と連携して、もっとわかりやすく便利に公共交通が利用でき、車のCO2 排出削減につながる取組を進めていきます。



六地藏電車バスブックの一部



近鉄大久保駅前バス路線図

緑のカーテンシンポジウムを開催しました

3/27

緑のカーテンの取り組みはさまざまな地域で広がりを見せています。

今回のシンポジウムでは、東京都板橋区立高島第五小学校の菊本先生から、自宅や小学校での実践例報告をいただきました。また、積水ハウスハートフル生活研究所で緑のカーテンについて研究されておられる田中さんから、育て方のノウハウについてお話いただきました。

【実践例報告】

板橋区立高島第五小学校
菊本るり子さん

■自宅から学校へ

環境共生をテーマとしたマンションへの入居をきっかけに家庭で緑のカーテンに取り組んだところ、2003年の猛暑、エアコンをほとんど使用せずに過ごすことができ、可能性を見出しました。そのような中、小中学校へのエアコン導入計画が持ち上がったことをきっかけに、小学校での取り組みを開始しました。

■成功のポイントはまわりとのつながり作り

実施にあたっては、資金やノウハウについて、マンションデベロッパーなど地元の企業や地域の方々の協力を得ました。例えば、水遣りに関しては、自動灌水装置の作り方を地元の企業の方に教えていただくことができました。

どの地域においても、植物の知識がある人など、必ず協力してくれる人がいるはず。緑のカーテンを実施するにあたって、地域の協力者を見つけて巻き込んでいくことが大切ポイントです。

■地域と連携した環境教育

土作りから植物の手入れ、そしてネットを撤去する作業まですべて子供たちと実施しました。環境

教育を実施する際には、ゲストティーチャーから学ぶスタイルを積極的に取り入れました。土、肥料、雨水、住まい方の工夫など、それぞれの専門分野で活躍されている方を招きました。自然を取り入れた住まい方の学習では、涼しさの作り方についてワークショップやサーモカメラを使った実験も実施してもらいました。その他、雨どいを扱う会社の方や気象キャスターによる学習も行いました。

子どもたちは、涼しさ、植物の育成や収穫の楽しさに加え、周りの人たちと協力してひとつのことをやり遂げることを学んだと感じています。

【緑のカーテン育て方講座】

積水ハウスハートフル生活研究所
田中孝雄さん

■カーテンの涼しさはどこから？

緑のカーテンはエアコンのように気温自体を下げるのではなく、部屋の中に入ってくる熱の量を少なくしてくれることによって、涼しさを作り出します。つまり、体感温度を下げてくれるのです。

■育て方のポイント

○植物と水の関係

植物が実際に利用できる水の量は思いのほか少なく、用土が含むことのできる水のうち最大でも30%程度しか利用することがで



シンポジウムの様子

きません。土を乾燥させないために、十分な水遣りと併せて、土の表面をわらなどで覆っておくという方法をお勧めします。

○植物と病気

害虫駆除においても水遣りにおいても、早期発見が大切です。何気なく通ったときに見る、虫を見つけたときにはそのときにさっととっておく、これが大事です。また植物の性質を上手く利用して混植をするという方法も、病気や害虫から守る効果があります。

■ポジティブな満足感を得よう

私はまきストーブの研究もしていますが、まきストーブから得られる満足感は、例えば全自動の床暖房などとは異なるものだと考えています。まきストーブの場合、まず寒い原因を自分で考え、まきを運んだり量を調節したりする過程が必要です。全自動の暖房から得ることのできる快適さを消極的な満足感とすれば、まきストーブから得られるものは手間暇をかけることから来るポジティブ（積極的）な満足感といえます。

同様のことは緑のカーテンにも言えます。生活力をつけないと本来の意味の満足は得られない。緑のカーテンはそういう意味で、生きる力を、そして生きる楽しみを提供してくれるのではないのでしょうか。

活動レポート

京都府地球温暖化防止活動推進センターの主な活動を報告します

●ウッドマイレージ CO₂ 認証制度運営協議会に「製材部会」が正式発足しました。

2月に、京都の木の品質や安定供給について話し合う「製材部会」が、ウッドマイレージ CO₂ 認証制度運営協議会の中に発足しました。ウッドマイレージ CO₂ 認証制度そのものは、産地を明らかにし環境性能をきちんと表示する取り組みですが、製材部会では京都の木の”材”としての性能をいかに向上させるか、使い手にとってより利用しやすいものにするか、といった点について議論をし、形にしています。

●「京都の木の家」各地で見学会が開催されています！

ウッドマイレージ CO₂ 認証制度が始まって2年目となった平成18年度、京都府内約40箇所では京都の木（ウッドマイレージ CO₂ 認証木材）の家が建築されました。このうちのいくつかは、住宅見学会が開催されています。地元の木での家づくりに興味のある方は、ぜひとも足を運ばれてはいかがでしょうか。見学会の開催情報はセンターのブログなどに公開しております。

●廃食用油回収・バイオディーゼル燃料化に取り組む府内の団体の交流集会を行いました。

3月6日（火）に、京エコロジーセンターで、「拡げよう、てんぷら油から温暖化防止」と題した交流集会を開催しました。基調講演では、京都市環境局施設整備課の中村一夫担当課長より、京都市がこれまでバイオディーゼル燃料の普及を全国に先駆けて推し進める中で生じた様々な技術的課題を、どのようにクリアし、品質の確保に結びつけていったかについて、極めて具体的なお話を頂きました。続いて、NPO法人丹後の自然を守る会の蒲田充弘理事長より、京都府北部を中心として、蒲田理事長がコーディネートしながら、それぞれの地域で町おこしにつながる魅力的な廃食用油回収・燃料利用・菜の花などの栽培のプロジェクトが起こってきた経過について、熱意あふれるお話を頂きました。



交流集会の様子

その後、各地で取り組む団体のリレートークがありました。老若男女・主婦・高校生から自治体職員までが、それぞれの地域の取組を発表し、回収の方法などについてのディスカッションで盛り上がりました。

京都府温暖化防止センターでは、府内各地のこれらの取組をまとめた冊子を現在編集中です。できあがりましたらご希望の方に配布するほか、インターネット上でも閲覧可能にする予定です。

●シンポジウム「住宅建築を環境のものさしではかる」を開催しました

住宅の環境性能を評価するプログラム「CASBEE -すまい」の開発が進んでいますが、そうした取組の京都での導入可能性について建築家・ハウスメーカー・学識経験者などで検討するシンポジウムを1月21日（日）に行いました。

HOT
TOPICS

京都の木で家を建てる方への優遇制度ができました

温暖化対策の最新情報・耳寄り情報

京都銀行と京都信用金庫では、今年4月より京都府木材認証制度（ウッドマイレージ CO₂ 認証制度）の認証を受けた京都府産木材での住宅の新築や増改築に対して、住宅ローンの金利を優遇する制度を設けました。他の金融機関においても同様の制度が検討されており、近々明らかになる予定です。詳しくは各金融機関にお問い合わせ下さい。

●「きょうとエコ貯」の取り組み期間が終了しました

インターネットを使ったエコライフ宣言「きょうとエコ貯」の取り組み期間が2月末で終了しました。きょうとエコ貯のWebサイトへのアクセス数は13,031件にのぼり、ログイン登録した374名から延べ1,905件の宣言がありました。取り組み報告によるCO₂削減量は1,641.9kg-CO₂でした。

ご参加いただきました皆様、そして、ご協力いただきました事業者の皆様、本当にありがとうございました。

「きょうとエコ貯」は、内容を見直し平成19年度にも実施したいと考えております。引き続きご参加・ご支援をいただきますようお願い申し上げます。

●セミナー「市民風車が作る地域社会の希望」を実施しました

3月21日(水)に宮津市内で、セミナー「市民風車が作る地域社会の希望」を開催しました。このセミナーでは、市民風車をつくり、それを活用した地域活性化に取り組んでいるNPO法人グリーンエネルギー青森の事務局長である三上亨氏にお越しいただき、事例を報告していただきました。三上氏からは、風車づくり自体が目的ではなく、地域を活性化することが目的であるということ、そして、それが実現されつつあることなどが報告されました。また、コメントーターの立命館大学産業社会学部の和田武教授からは、地域の資源である自然エネルギーを地域の市民が活用するのが自然な姿であり、そうしてこそ地域は健全な発展をするということ、ドイツやデンマークでは、それが当たり前になっていること、そして、丹後地域には、それを実践できるだけの自然エネルギー資源、人的資源があることなどが話されました。



青森の市民風車「わんず」

●環境学習実践交流会を開催しました

3月3日(土)に長岡京市内において京都環きょうみらい会議と連携して「環境学習実践交流会」を開催しました。前半では、4名の先生から府内の学校での実践例を報告していただきました。後半のディスカッションでは、会場も交えて活発な意見交換が行われ、子供たちの興味・関心、あるいは発達段階に応じたプログラムが実施される必要があります、外部協力者もその点には配慮する必要があること、環境学習においては地域の人たちの協力が不可欠であること、かといって、外部講師に「まる投げ」してはならず、教員がコーディネーターとなることなどが重要であることなどの考え方が共有されました。

●「省エネ家電普及診断プログラム」を開発しました。

エアコン・冷蔵庫の電気代を京都の気候、実際の使用条件を踏まえて診断し、買換えによる省エネ効果を推計するプログラムを開発しました。

<http://www.kcfca.or.jp/center/kaden/index.htm> からダウンロード可能です。

●みどりのカーテン育成ガイドブックのPDF版がダウンロード可能となりました

京都府温暖化防止センターでは、昨年度、みどりのカーテンの効果や育て方、地域での実践例をまとめた冊子「みどりのカーテン育成ガイドブック」を作成いたしました。その内容が京都府温暖化防止センターのHPからダウンロードできるようになりましたので、ぜひご活用下さい。

みどりのカーテン育成ガイドブック ▶



web 版みどりのカーテン交流広場に事務局からのお知らせ ご参加ください

どの地域で、どのような緑のカーテンの取り組みが実施されているのか、さまざまな情報を発信していくための「web 版・みどりのカーテン交流広場」をみなさんと一緒につくりあげていきたいと考えています。

web 版に登録するとこんないいことが・・・

5月くらいにセンターのHPより閲覧可能となります。

その1 府内各地での緑のカーテンの取り組み情報が入ってきます。

その2 緑のカーテン育成に関して困ったことなどについて情報交換できます。

その3 ご自身の緑のカーテン取り組み結果を発信できます。

4月下旬～5月中旬が植物の植え付け時期です。ぜひみなさんのご自宅や地域の施設でも取り組みを！

ご登録いただく方は以下の情報を随時ご提供ください！

写真

緑のカーテンの生育状況の写真や取り組みに関連する写真を可能な限り、ご提供下さい。

情報

緑のカーテンの成長過程や育て方のノウハウについての情報をご提供下さい。また、環境教育など実施された場合にはその情報もご提供下さい。

質問やアドバイスも

緑のカーテン育成にあたり、困ったことがありましたら、ご質問をお寄せ下さい。また、皆様からの質問に対するアドバイスもお寄せ下さい。

登録方法については web サイト (<http://www.kcfca.or.jp>) をご覧下さい

緑のカーテンにご関心をもたれた方は、お気軽に当センターまでご連絡ください

■■■ご挨拶 ～職員が増えました～ ■■■



竹花由紀子

こんにちは、竹花由紀子と申します。今まで「京のアジェンダ 21 フォーラム」や「京都市環境保全活動センター（京エコロジーセンター）」の職員を務め、この春から京都府温暖化防止センターで働くことになりました。「さすらいの環境仕事人」とも呼ばれる私ですが、環境のことを考える人がトクをする社会の仕組みづくりに向け、取組の輪を進めていきたいと考えております。なにぶん新人ですので、どうぞお手柔らかにお願いいたします。

今年度から職員になりました、吉川春菜と申します。3月まで大学院に通っておりましたが、京都府温暖化防止センターへも定期的にお手伝いに来ておりました。温暖化防止活動を進める方々と一緒に、楽しく活動できればと考えています。どうぞよろしく申し上げます。



吉川春菜

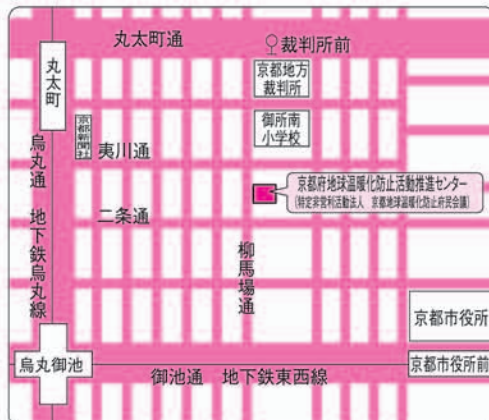
京都府地球温暖化防止活動推進センター通信「うぉーみんぐ」

(平成 19 年春号 平成 19 年 3 月発行 (年 4 回発行))

発行：京都府地球温暖化防止活動推進センター
(特定非営利活動法人 京都地球温暖化防止府民会議)
理事長：郡崙 孝 運営委員長：浅岡 美恵
〒604-0965 京都市中京区柳馬場通二条上る六丁目 283 番 4
TEL：075-211-8895 FAX：075-211-8896
URL：<http://www.kcfca.or.jp> E-mail：center@kcfca.or.jp

編集：伊東 真吾 木原 浩貴 竹花由紀子 永野 恵子 瀬上 佑樹 吉川 春菜

法人の活動を支えてくださる会員を募集しています！
年度会費 正会員（個人）：1,000 円 正会員（団体）：2,000 円
準会員（個人）：1,000 円 準会員（団体）：2,000 円
賛助会員：10,000 円
詳しくは事務局までお問い合わせ下さい。



この印刷物は、古紙配合率 100%の再生紙に、大豆インキで、風力発電による自然エネルギーを使って印刷しています。

